

2017年度 自己点検・評価【人間福祉学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	人間福祉学部長	作成部局	人間福祉学部
-----	---------	------	--------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

人間福祉学部学生の学力の向上

(狙い内容)

高等学校での学びから大学の学びへの円滑な移行を促進し、学力の底上げを図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

低学力の学生数を減少させ、学生間の学力格差を是正する。

2. 達成度評価

評価指標	直近2年間の2年生から3年生への進級判定不合格者数における入学方式毎の人数の割合、または、進級判定不合格者の総数のいずれか。(いずれかを満たせば尺度達成)	評価尺度	<p>A：割合が15%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が15名未満。</p> <p>B：割合が20%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が20名未満。</p> <p>C：割合が25%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が25名未満。</p> <p>D：割合が30%を超える入学方式がある、または不合格者の総数が30名を超えている。</p>
------	---	------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		D 2014年度33名、2015年度32名で、平均をとると30名を超える。	D 2015年度は32名。	D	C	C	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	D	D	見込み	D			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	2014年度33名、2015年度32名で、平均をとると30名を超える。	スポーツ選抜入試において45%を占めており未達成。					

【2017年度の進捗状況について】

スポーツ選抜入試において、面接方法を検討しており、徐々に成果が表れている。特に現2年生については、成績不良によるアカデミックアドバイザー制度の対象者が減少している。また、スタディガイドを作成するなど、低学年の学生への学びへの姿勢など明確にしている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標に対して多様な行動計画が立てられており、意欲的で優れていると評価できます。(A)
- ・ スタディガイドにて低学年層への学びの姿勢を示している点が、評価できます。(B)
- ・ 学生の学びの意欲の向上させることは容易ではありませんが、継続して取組みを進めていくことを期待します。(C)
- ・ 入試制度ごとに学力に大きな開きがあるのは問題であり、これに関して抜本的な改革が必要と思われます。(D)
- ・ 低学力学生への取り組みの進展が期待されます。(E)
- ・ 行動計画④が予定より先行するなど評価できる面もあるが、③については進捗に遅れがあると考えられる。(G)
- ・ 行動計画1のさらなる進展が望まれます。(H)
- ・ スタディガイドの作成・配付による周知徹底の効果等の測定が今後期待されます。(J)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

学問的基盤に根ざした専門的かつ実践的な教育の提供

(狙い内容)

「実学の府」にふさわしい、「3つのC」(「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」)を在学中に身に付けられる教育内容を提供する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学生一人一人が、自ら専攻した領域の学びに意欲的に取り組み、充実感をもって卒業する。

2. 達成度評価

評価指標	卒業時に実施するアンケート結果(「4年間の学びを通して『3つのC』が身についたと思いますか」という問いに対する「はい」と答える者の割合)	評価尺度	A : 「はい」と答える者の割合がCに対して6%アップ B : 「はい」と答える者の割合がCに対して3%アップ C : アンケートを実施し、現状を把握 D : アンケート未実施
-------------	--	-------------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		D 学部長室委員会で検討。	C アンケートを作成し、試行的に実施予定。	C	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	学部長室委員会で検討。	アンケートを未実施	見込み アンケートを実施し、回答を得た(80.4%)				

【2017年度の進捗状況について】

今回アンケートを試験的に実施し、80%以上の学生が本学の学びを体得している結果となった。2月に改めて4年生全員にポートフォリオを用い、アンケートを実施し、その後卒業生のみを集計する予定。今後はカリキュラム改革を通じ、より一層の理解を深めていくような工夫を行う。ただし、カリキュラム改革については検討しているが、社会福祉士の資格において科目対応が必要となる可能性があり、その場合改革自体を遅らせる可能性がある。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標について、試験的ではあれアンケート実施の結果、80%もの学生が肯定しているのであれば、すでに十分な成果が上がっているのではないのでしょうか。(A)
- ・ ほぼ順調に進捗しており、評価できます。
- ・ 社会福祉士の資格を見据えたカリキュラム改革が期待されます。(B)
- ・ 2017年度から実施したアンケート調査について、様々な視点から確認して今後の改善点の抽出に繋げることを期待します。(C)
- ・ 全般的に、順調に進捗していると評価できます。教育目標②について、「3つのC」が身に付いたか否かのアンケートは、学生の主観を問うており、これと共に、客観的なデータも必要だと思われます。(D)
- ・ 進展している行動計画と、していない行動計画の選別が期待されます。(E)
- ・ 全体的に順調に進捗しており評価できる。とくに②卒業研究ガイドの作成については予定以上に速く進んでおり、学生の必要性を鑑みると、高く評価できる。(G)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

「人間福祉」の多様性と可能性を社会に発信し、「人間福祉」という学問領域を社会に浸透させる。

(狙い内容)

「人間福祉」に関わる諸領域に強い関心と学ぶ意志を持つ学生を受け入れ、4年間の意欲的な学びを通して身に付けた知識・価値観・学問的及び実践的手法を活用して社会の発展に寄与し得る卒業生を社会に輩出する。「人間福祉」という領域が「福祉の現場」のみならず社会のあらゆる場面で活かすことができる可能性に溢れるものであることを社会に浸透させる。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

人間福祉学部各学科の学際的かつ幅広い学びに深く関心を持つとともに、それぞれの専門性に対して強い意欲を持った、本学部を第一志望とする学生を安定的に確保する。

2. 達成度評価

評価指標	卒業時アンケート結果(「人間福祉学部が第一志望でしたか」という問いに対して「はい」と答えた者の割合)	評価尺度	A : Cに対して10%アップ B : Cに対して5%アップ C : アンケートを実施し、現状を把握する D : 現状を把握していない
------	--	------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		D アンケート実施せず。	C アンケートを作成し、試行的に実施予定。	C	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	アンケート実施せず。	アンケートを実施せず。	見込み アンケートを実施 し、回答を得た (63.0%)				

【2017年度の進捗状況について】

今回(夏)アンケートを試験的に実施し、63.0%の学生が第1志望の結果となった。2月に改めて4年生全員にポートフォリオを用い、アンケートを実施し、その後卒業生のみを集計する予定。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ おおむね順調に進展しているものと思います。学部HPの閲覧者数、第一志望者の増加、PRイベントの開催など現実的な目標となっており、高く評価できます。(A)
- ・ 広報対策が功を奏しており、評価できます。(B)
- ・ 今後も様々な取組みを進め、人間福祉学部に興味を持つ学生が増えていくことを期待しています。(C)
- ・ 「2.達成度評価」において、卒業時に第1次志望の割合を調査するとのことですが、入学時にするのが望ましいと思われます。(D)
- ・ 卒業時効果のある行動計画と、そうでない計画の選別が期待されます。(E)
- ・ 概ね順調に進捗している。(G)
- ・ 行動計画1と2は順調に進捗しています。数値目標の修正や改善によるさらなる目標の進展が期待されます。(H)
- ・ 目標に向けて今後の進捗が期待されます。(I)